

川崎市子ども・子育て支援に関する調査

サンプル数の内訳・設定状況について

1 調査数の内訳について

(1) 就学前子どもの保護者 15,000 件（無作為抽出）の内訳

年齢区分と必要なサンプル数を次のとおり設定しております。

ア	0歳児区分	4,300件
イ	1～2歳児区分	5,000件
ウ	3～5歳児区分	5,700件

<年齢区分の考え方>

年齢区分については、国の指針では、0歳児、1～2歳児、3～5歳児の3区分で設定することとされております。

<サンプル数の取り方について>

年齢区分においては、それぞれ母集団数が異なりますが、母集団数が少ないほどサンプル数を多くとる必要があることと、また、全件調査した場合との誤差を抑える（標準誤差5%以内を想定）ことも踏まえて設定いたしました。

また、回収率を50%程度と見込んだ上でのサンプル数を設定いたしました。

なお、就学前子どもについての地域区分は行政区7区分としております。

(2) 就学子どもの保護者 3,000 件（無作為抽出）の内訳

年齢区分と必要なサンプル数を次のとおり設定しております。

ア	6歳児区分	1,000件
イ	7～8歳児区分	1,000件
ウ	9～11歳児区分	1,000件

<年齢区分の考え方>

就学児を対象とする調査は市町村の任意事項となっておりますので、本市の主要な放課後児童健全育成事業である「わくわくプラザ」等の利用状況・ニーズを把握するため、低学年と高学年に分け、低学年をさらに1年生、2～3年生に分け、3区分としました。

<サンプル数の取り方について>

未就学児童では、地域区分を行政区7区分としておりますが、就学児では、特に主要な「わくわくプラザ」事業が全小学校で取り組んでいる全市的な事業ですので、地域区分を全市一括（1区分）としています。そのため、必要サンプル数は未就学児と比較して少なくなりますが、誤差や回収率を考慮したうえで、3区分とも1000件に設定いたしました。

た。

2 単純集計の問題点

年齢区分の各サンプル数は、その母集団数や誤差抑制の関係で設定しているため、各年齢区分毎に分析をするための取り方をしております。そのため、年齢区分ではなく、各歳児でのサンプル数を比較すると、0歳児のサンプル数が多く、次いで1歳児及び2歳児のサンプル数、そして3歳児、4歳児、5歳児のサンプル数というように差が生じます。

単純集計では、調査票の回答の件数を積み上げた分布図を示していますので、0歳児の回答数が多いことから、0歳児の保護者の意見・回答が多くなりますので、未就学全体の分布図として見る場合は実際とは違う結果が生じます。

そのため、全市として歳児に偏りが生じない統計とするため、補正を行う必要があるかと考えております。